

# ゆり栽培の省力化(自動かん水)で時間を有効に!

## 「経験と勘」を数値化してゆり栽培の技術継承

活動年次：令和3年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

### 1 課題設定の背景 \*\*\*\*\*

- 当別町は全道で有数の花き産地
- 高齢化・担い手不足で農家戸数は減少
- 新たな担い手の受入で、産地の維持が必要
- 花き生産は手作業が多く、栽培技術の継承がむずかしい

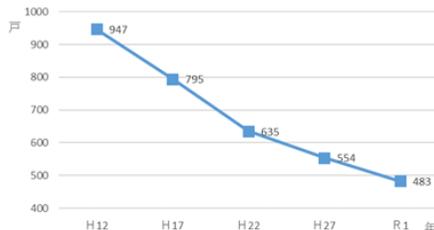


図 当別町農家戸数の推移



省力化→かん水作業：1棟1棟のかん水弁をすべて手作業で開閉する。  
作付けハウスを回るには時間と労力がかかる

### 2 活動の経過 \*\*\*\*\*

技術継承に必要な「経験と勘」を数値化するために、ゆり部会で経験値の高い農業者と新規参入7年目の農業者2戸でモニタリングを実施。

- ・環境モニタリングによるデータの収集(温度、湿度、土壌水分、日射量など)
- ・自動かん水装置による流量調査(1戸1ハウス)
  - \* 1ハウス内に自動かん水ベッドと慣行かん水ベッドを設置した
  - \* 土壌水分30%でかん水を設定

#### <生育調査>

		9月27日
草丈	自動かん水	89.8cm
	慣行かん水	88.7cm

生育に大きな差は見られない

花蕾数	自動かん水	4.8個
	慣行かん水	4.6個

		8~10月累計
流量 (1ベッド)	自動かん水	4,646 L
	慣行かん水	5,484 L



#### <聞取調査>

7~9月のかん水作業では、1月に約23時間かかっている  
 7~8月はかん水がほぼ毎日、平均すると2日に1回の割合となる  
 1日平均で16棟、最大で22棟をかん水見回りする  
 ハウス間はバイクで移動

### 3 活動の成果 \*\*\*\*\*

#### <選花結果>

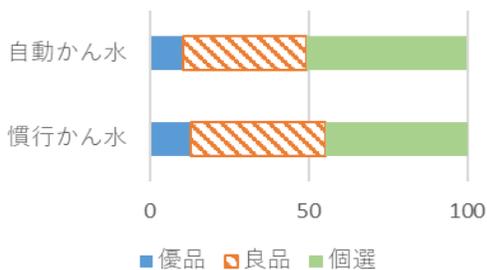


図 出荷物の等級割合

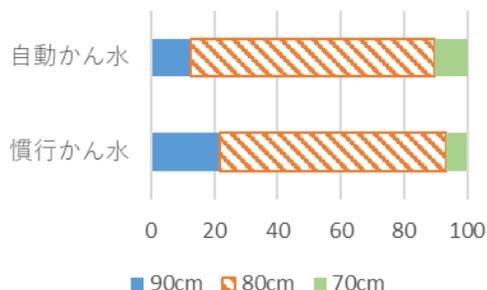


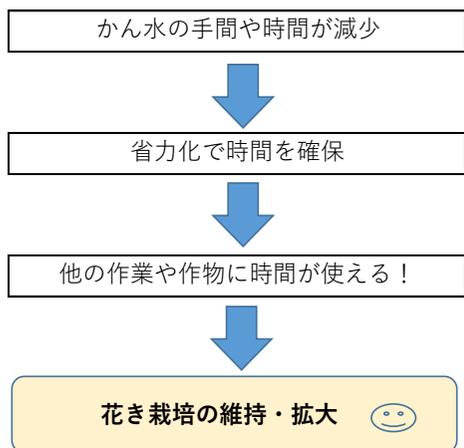
図 出荷物の規格割合



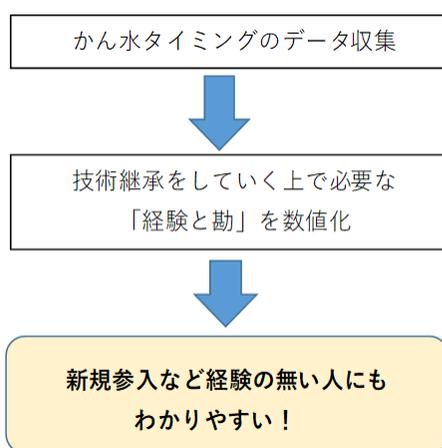
写真 ゆり選花の様子～1本1本選別する

製品率は慣行かん水のほうが若干良かった

#### <省力化>



#### <新規参入>



- ☆自動かん水装置が導入されると1月23時間かかったかん水時間が、他の作業に使えることがわかった
- ☆自動かん水になると、人に任せられない仕事から、誰にでもできる仕事になる
- ☆新規に始める人へかん水のタイミングが継承される



花き生産は手作業が多いので、かん水作業が自動化されると他の作業ができて助かります！

### 4 今後の活動 \*\*\*\*\*

- ・町の事業として令和3～5年度まで実施。今後も支援を継続する。
- ・データを活用して、新規参入者用栽培マニュアルに反映させる。